



野村花火工業株式会社
代表取締役
野村 陽一

略歴
明治8年創業の野村花火工業株式会社の4代目。家業の花火師として先代より修行を積み、新しい発想と技術力で新しい花火づくりに挑戦する。
・NHK「プロフェッショナル」仕事の流儀」、TBS系列「情熱大陸」出演等、テレビ出演多数
・平成25年「現代の名工」に選出、平成26年「黄綬褒章」受賞、内閣総理大臣賞23回受賞

大洗町民の皆様、こんにちは。大洗海上花火大会の打上を担当する花火師の野村です。このたび広報誌への寄稿の依頼をいただきましたので、花火の歴史と大洗海上花火大会について書かせていただきたいと思います。

日本で初めて花火を見たと言われるのは、徳川家康公であり、慶長年間の1612年頃のことでした。その後、花火好きであった三代将軍・家光公が花火を奨励した結果、流星、ねずみ花火、からくり花火などの玩具花火が登場し、あっという間に庶民の間で大流行となりました。

そして皆様もご存知かと思いますが、この花火を支え、発展させた立役者といえば「玉ヤア、鍵ヤア」のかけ声で有名な「玉屋」「鍵屋」の江戸二大花火師です。江戸の隅田川、両国橋の上流・下流で競演しながら、花火の全盛時代を築いたわけです。この時代の花火は球面体ではなく、流星、のろし

花火、しだれ柳など線状で表すものでした。また、色を出す技術はなく、木炭が燃える時に出る火の粉の色を楽しむ程度のもので、技術改良が進み、日本特有の丸い菊型花火が誕生したのは江戸時代後期からでした。

そして現在の花火は、マグネシウム、アルミニウム、チタン合金などの金属粉を使用することにより高温となり、昔の花火と比較にならないほど、色も鮮やかになっています。打ち上げも電気点火を使用するため、曲と連動しながら0.1秒単位で演出でき、音楽との同調が可能となりました。音楽と花火が融合したスターマインは、特に人気を集めています。

大洗海上花火大会でも、幅450mにわたって音楽に合わせて打ち上げる迫力満点のワイドスターマインや、全国花火競技大会で内閣総理大臣賞を受賞した、世界で初めて当社が制作した10号玉の特選玉が打ち上がります。さらに、最後には直径500

mに開く大迫力の20号玉も打ち上がるなど、見どころ満載の花火大会です。

広いサンビーチ海岸をバックに、水平線から打ち上がる花火は最高のロケーションであり、大洗海上花火大会の大きな特徴になっています。これからも、このロケーションを最大限に活かせるよう、技術の粋を尽くし、趣向を凝らした花火を打ち上げてまいります。

なんとと言っても、花火の魅力は、見る人々に「癒しの空間」と「心の洗濯」を提供できることにあると思います。花火の力で、國井町長が掲げる「幸せ無限大」の世界に、少しでも近づけるお手伝いできれば幸いです。

町民の皆様、秋の澄み切った夜空に打ち上がる火の芸術を、これからもどうぞお楽しみください。

「ソント」から見たおおあらいでは、皆様でご活躍の方々から大洗についてのご寄稿をいただきます。